



## 平成25年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月9日

上場取引所 東

上場会社名 津田駒工業株式会社  
コード番号 6217 URL <http://www.tsudakoma.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 菱沼 捷二

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役総務部長 (氏名) 富井 裕次

TEL 076-242-1111

四半期報告書提出予定日 平成25年10月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年11月期第3四半期の連結業績(平成24年12月1日～平成25年8月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年11月期第3四半期	28,185	5.8	△692	—	△742	—	△775	—
24年11月期第3四半期	26,651	△15.3	△710	—	△756	—	△767	—

(注) 包括利益 25年11月期第3四半期 △211百万円 (—%) 24年11月期第3四半期 △851百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年11月期第3四半期	△12.14	—
24年11月期第3四半期	△12.01	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
25年11月期第3四半期	41,053		15,727		35.9	
24年11月期	34,254		16,014		43.9	

(参考) 自己資本 25年11月期第3四半期 14,751百万円 24年11月期 15,050百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年11月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年11月期	—	0.00	—	—	—
25年11月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

### 3. 平成25年11月期の連結業績予想(平成24年12月1日～平成25年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,800	26.8	△400	—	△450	—	△500	—	△7.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)  
特定子会社には該当いたしません、下記2社を第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。  
津田駒機械設備(上海)有限公司、津田駒機械製造(常熟)有限公司

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 有  
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年11月期3Q	68,075,552 株	24年11月期	68,075,552 株
② 期末自己株式数	25年11月期3Q	4,155,637 株	24年11月期	4,154,493 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年11月期3Q	63,920,765 株	24年11月期3Q	63,922,113 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	P 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	P 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	P 3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	P 3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	P 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	P 4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	P 4
3. 四半期連結財務諸表 .....	P 5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	P 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	P 7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	P 9
(4) セグメント情報等 .....	P 9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	P 10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権の経済政策への期待感から、円高の是正や株価の上昇が進み、輸出や個人消費を中心に緩やかな回復基調となってまいりました。一方、国際経済では欧州債務問題や新興国の成長鈍化など不透明要素も依然として強く、今後の影響を注視していかなければなりません。

こうした中、当企業グループは受注の確保と売上の拡大に注力いたしました。

繊維機械事業では、第1四半期には低迷を余儀なくされましたが、第2四半期以降は中国市場を中心に当初予想を上回る受注を確保し、売上を伸ばすことができました。工作機械関連事業では、主要な販売先であります工作機械業界の回復が期待した伸びに至らず、当初計画を大きく下回る結果となりました。

一方、損益面では第2四半期以降は黒字を確保しておりますものの、工作機械関連事業の生産・売上の低迷に加え、繊維機械事業においてはユーロ高による欧州からの輸入装置の購入価格の高騰や生産増加に伴う派遣社員等増員による生産効率の低下など、当初計画を下回る利益水準となりましたことから全体では第1四半期に計上を余儀なくされました大きな損失をカバーするには至っておりません。

この結果、全体では、受注高は36,401百万円（前年同期比57.9%増加）と増加いたしました。売上高は、繊維機械事業は堅調に推移いたしましたものの、工作機械関連事業の不振が影響し、28,185百万円（同比5.8%増加）にとどまりました。

損益面では、営業損失692百万円（前年同期 営業損失710百万円）、経常損失742百万円（同 経常損失756百万円）、四半期純損失775百万円（同 四半期純損失767百万円）と誠に遺憾ながら損失計上となりました。

セグメント別の状況は以下の通りです。

## 〈繊維機械事業〉

中心市場であります中国市場では、中国製繊維製品の輸出が米国・アジア向けを中心に回復傾向を示し、お客さまの設備投資に向けた環境は改善してまいりました。また、円高是正による当社製品の価格競争力の回復もあり、市場環境は改善の傾向を示しました。当第3四半期連結累計期間における中国市場向けの受注高は20,498百万円（前年同期比173.0%増加）、売上高は13,426百万円（同比25.1%増加）であります。

インド市場ではシャツ地やシート地などの分野を中心に堅調に推移いたしました。政府による繊維産業の設備投資に対する利子補給制度の実行の遅れや通貨安の影響から、期待した伸びには至っておりません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の当事業の受注高は31,770百万円（前年同期比86.4%増加）と大幅な増加となりました。売上高は、第1四半期は低水準の操業を余儀なくされましたものの、第2四半期以降の回復により、売上高23,502百万円（同比13.8%増加）となりました。

損益面では、原価低減活動や円安を生かした販売価格の改善に取り組み、第3四半期累計では黒字に転換いたしましたものの、当初計画した利益を上げることができず営業利益は58百万円（前年同期 営業損失195百万円）と当初計画を下回る結果となりました。

開発面では、平成25年5月にトルコで開催されました国際繊維機械展示会で新型エアジェットルーム「ZAX9200MASTER」を発表いたしました。

また、平成24年10月に設立いたしましたエアジェットルーム生産の中国合弁会社「経緯津田駒紡織機械(咸陽)有限公司」は、本年8月から工場が稼働し、9月に第1号機の出荷を行っております。

## 〈工作機械関連事業〉

当事業の主要な販売先であります工作機械業界では、北米市場は基幹産業（自動車、エネルギー、航空機、医療など）を中心に堅調な設備投資が続きましたものの、同業界の受注金額が依然として前年割れの状況が続くなど、回復の遅れが顕著となりました。

こうした中、当事業部門は米国市場では基幹産業向けを中心に積極的な販売活動を展開し、安定的な受注・売上を確保することができました。中国市場では、自動車産業向けで第3四半期に入り回復の動きが見られております。一方、携帯電話など電子機器産業の設備投資は低調なまま推移いたしました。その他のアジア市場では、オートバイ生産から4輪車生産への移行が進んでおり、受注獲得に向け積極的な販売活動を展開いたしました。

この結果、当事業の受注高は4,630百万円（前年同期比22.9%減少）、売上高は4,682百万円（同比22.0%減少）と厳しい状況を余儀なくされました。損益面においては、生産・売上の減少により、営業利益は60百万円（前年同期比82.9%減少）と低迷いたしました。

開発面では当社独自の技術でありますボール・ドライブ・システムという全く新しい駆動方式を採用したNC円テーブルを商品化し、各国展示会等でアピールいたしました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ6,799百万円増加し41,053百万円となりました。主な増減は、売上の増加による売上債権の増加によるものであります。負債は、前連結会計年度末に比べ7,086百万円増加し25,326百万円となりました。主な増減は、生産の増加による仕入債務の増加によるものであります。純資産は、四半期純損失775百万円を計上したこと等から前連結会計年度末に比べ287百万円減少し15,727百万円となり、自己資本比率は35.9%となりました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

繊維機械事業につきましては、受注・売上面では引き続き堅調に推移すると見込んでおります。一方、損益面につきましては、第3四半期までの実績を踏まえ、通期でも当初計画を下回ると判断せざるを得ません。

工作機械関連事業につきましては、米国市場の堅調に加え、中国市場においても自動車関連の設備投資を中心に回復の兆しが出てまいりましたことから、今後の市況の回復が期待されます。しかしながら、当会計期間内におきましては急激な回復は難しい状況であります。

全体の通期の業績予想につきましては、売上高は40,800百万円と7月11日に公表いたしました予想値を上回る見込みであります。しかし、損益面では第2四半期以降は黒字で推移してまいりましたが、繊維機械事業の利益減少の影響は大きく、通期でも第1四半期に計上を余儀なくされました損失をカバーするには至らないと判断しております。通期の営業損失は400百万円、経常損失は450百万円、当期純損失は500百万円と、誠に遺憾ながら、赤字決算となる見込みであります。

こうした状況に対して、受注・売上高の増加は当企業グループの製品力・技術力・サービス力に対するお客さまの評価の表れと認識し、引き続き伸ばして参ります。

一方で収益力の改善を喫緊の課題とし、調達過程での為替変動への適切な対応、社内における生産コスト管理の徹底、海外生産を含めた生産体制の効率化、新技術の商品化のスピードアップなど対策と改善を進めて参りたいと存じます。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、重要性が増した津田駒機械設備(上海)有限公司及び津田駒機械製造(常熟)有限公司を連結の範囲に含めております。

### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年12月1日以後取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,299	8,162
受取手形及び売掛金	7,120	13,976
製品	1,141	1,808
仕掛品	1,924	2,250
原材料及び貯蔵品	631	1,202
その他	293	461
貸倒引当金	△10	△10
流動資産合計	21,401	27,851
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,329	4,181
機械装置及び運搬具(純額)	2,451	2,235
土地	3,766	3,766
建設仮勘定	—	14
その他(純額)	265	295
有形固定資産合計	10,813	10,494
無形固定資産		
	62	56
投資その他の資産		
投資有価証券	1,803	2,425
その他	613	666
貸倒引当金	△439	△440
投資その他の資産合計	1,977	2,651
固定資産合計	12,853	13,202
資産合計	34,254	41,053

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,994	4,410
短期借入金	6,193	6,027
未払法人税等	32	32
賞与引当金	—	389
受注損失引当金	19	5
未払金	3,864	7,016
その他	1,382	1,099
流動負債合計	13,485	18,982
固定負債		
長期借入金	474	1,976
退職給付引当金	4,211	4,286
役員退職慰労引当金	28	28
環境対策引当金	39	39
その他	—	13
固定負債合計	4,753	6,344
負債合計	18,239	25,326
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	12,316	12,316
資本剰余金	5,469	3,880
利益剰余金	△1,117	△376
自己株式	△1,237	△1,237
株主資本合計	15,431	14,582
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△379	21
繰延ヘッジ損益	△1	△4
為替換算調整勘定	—	151
その他の包括利益累計額合計	△381	168
少数株主持分	964	976
純資産合計	16,014	15,727
負債純資産合計	34,254	41,053



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年12月1日 至平成24年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年8月31日)
売上高	26,651	28,185
売上原価	24,132	25,537
売上総利益	2,518	2,648
販売費及び一般管理費	3,229	3,340
営業損失(△)	△710	△692
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	29	31
投資有価証券売却益	—	22
その他	34	26
営業外収益合計	65	81
営業外費用		
支払利息	69	61
為替差損	35	61
その他	7	8
営業外費用合計	112	131
経常損失(△)	△756	△742
特別利益		
固定資産売却益	54	0
特別利益合計	54	0
特別損失		
固定資産処分損	22	3
ゴルフ会員権評価損	2	0
特別損失合計	24	4
税金等調整前四半期純損失(△)	△727	△746
法人税、住民税及び事業税	18	17
法人税等調整額	57	3
法人税等合計	75	20
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△803	△767
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△35	8
四半期純損失(△)	△767	△775

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年12月1日 至平成24年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年12月1日 至平成25年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△803	△767
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△48	407
繰延ヘッジ損益	△0	△2
為替換算調整勘定	—	151
その他の包括利益合計	△48	556
四半期包括利益	△851	△211
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△814	△224
少数株主に係る四半期包括利益	△36	13

## (3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (4) セグメント情報等

## I 前第3四半期連結累計期間(自 平成23年12月1日 至 平成24年8月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	繊維機械 事業	工作機械 関連事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	20,644	6,007	26,651	—	26,651
セグメント間の内部売上高 又は振替高	558	—	558	△558	—
計	21,203	6,007	27,210	△558	26,651
セグメント利益又は損失(△)	△195	355	160	△870	△710

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメントに配賦していない全社費用△870百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っています。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 平成24年12月1日 至 平成25年8月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	繊維機械 事業	工作機械 関連事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	23,502	4,682	28,185	—	28,185
セグメント間の内部売上高 又は振替高	361	—	361	△361	—
計	23,864	4,682	28,546	△361	28,185
セグメント利益又は損失(△)	58	60	119	△811	△692

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメントに配賦していない全社費用△811百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っています。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年12月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しています。

なお、当該変更による当第3四半期連結累計期間のセグメント利益に与える影響は軽微であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成25年2月22日開催の定時株主総会における「剰余金の処分の件」の決議に基づき、その他資本剰余金1,589百万円を繰越利益剰余金に振り替えております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が3,880百万円、利益剰余金がマイナス376百万円となっております。